

テクニカルダイアリー

適切な土壌pH(5.5～6.0)を維持し、pHが高い圃場(6.5以上)での作付けは極力避けましょう。また、pHが基準より高めの圃場で作付けを行う場合には、石灰質肥料を控えましょう。施肥は表④を参考にしてください。

圃場の準備と植え付け

種芋が届いたら、ムレや腐敗を防ぐため、できるだけ速やかに開封しましょう。種芋は必ず風通しの良い所で保管し、痛みや変色、腐敗等を発見したら、すぐに取り除いてください。1片の大きさは40～60gで2～3個の芽がつくように切断し、切り分けた芋は風通しの良い日陰で乾かしましょう。また、病害予防のために種芋の粉衣処理や浸漬処理をし、消毒を行いましょう(表③参照)。

植え付け準備

種芋が届いたら、ムレや腐敗を防ぐため、できるだけ速やかに開封しましょう。種芋は必ず風通しの良い所で保管し、痛みや変色、腐敗等を発見したら、すぐに取り除いてください。1片の大きさは40～60gで2～3個の芽がつくように切断し、切り分けた芋は風通しの良い日陰で乾かしましょう。また、病害予防のために種芋の粉衣処理や浸漬処理をし、消毒を行いましょう(表③参照)。

センチュウの防除には、ネマキック粒剤やネマトリンエース粒剤を10a当たり20g施用してください。

病害対策

●そうか病(写真③)

放線菌による被害で、中心がくぼんだカサブタ状の病斑が発生します。高温、乾燥条件下で発生しやすく、特にpHが6.5以上のアルカリ性土壌で多発します。石灰質肥料を使用する場合、石灰質肥料を散布する場合には、施肥前に土壌診断を行い、pHが5.5～6の弱酸性になるよう、施肥量に注意しましょう。そうか病の発生が多い場合には、植え付け時にネビジン粉剤(10a当たり30g)の作



写真③ そうか病

病原菌による被害で、葉などの裏側から侵入することで感染します。湿度が高い長雨の時期や、排水の悪い場所などに発生しやすいのが特徴です。発生するとあつという間に広がるほど感染力が強いため、レーバスフロアブルやプロポーズ顆粒水和剤などで早期に防除を行いましょう。

●疫病

糸状菌による被害で、見た目はそうか病と類似しています。乾燥の後の多雨や排水不良、過湿条件下で発生しやすく、そうか病とは発生条件が異なる病気です。進行すると、皮が破れて被害部(カサブタ)の周囲へひだ状に残ります。

●粉状そうか病

糸状菌による被害で、見た目はそうか病と類似しています。乾燥の後の多雨や排水不良、過湿条件下で発生しやすく、そうか病とは発生条件が異なる病気です。進行すると、皮が破れて被害部(カサブタ)の周囲へひだ状に残ります。

表③ バレイショの種芋消毒農薬

薬剤名	適用病害	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
アタッキン水和剤	黒あざ病 黒あし病 そうか病	40倍	—	植付前	1回	5～10秒間 種芋浸漬
バリダシン粉剤DL	黒あざ病	—	種芋重量の0.3%	植付前	1回	種芋粉衣※

※種芋切断後、切り口が乾いてから粉衣する。

表④ バレイショの施肥例

肥料名	成分	施肥量(10a当たり)
畑のカルシウム	カルシウム28.5%	100kg
苦土重焼燐	0-35-0	40kg
さんぶジシアン有機特806	8-10-6	200kg

営農なんでも相談室

皆さまの営農に関する悩みを、JAの総合事業の力で解決！栽培管理、コスト削減、規模拡大、求人・雇用のことなど、お気軽にご相談ください。

JA山武郡市
営農なんでも相談室
(本所 営農部内)
☎0120-972-860



写真② シロイチモジヨトウの卵



写真① シロイチモジヨトウ

若齢幼虫は集団で生息していますが、中齢以降は葉の中に食入するため、薬剤が届きにくくなります。薬剤抵抗性が発達している有効薬剤が少なく、一部のジアミド系薬剤では、殺虫効果が低下しています。そのため、

次作に向けてのシロイチモジヨトウの防除

今夏は、県内の秋冬ネギ圃場にてヨトウムシ類、特にシロイチモジヨトウ(写真①②)の被害が多発しました。高温少雨で発生が増加します。

多発生時は、圃場内にさまざまな生育ステージのシロイチモジヨトウが混在し、一度の防除では被害を止められないため、こまめなローテーション散布が必要(表①参照)。

黒斑病・葉枯病(黄色斑紋病斑)

黒斑病、葉枯病ともに15～25℃で発病しやすく、春から秋まで発生が長く続きます。葉枯病は、主に外葉で葉先枯れや葉枯症状が発生します。さらに冷え込むと黄色斑紋病斑も発生し、出荷物の品質に影響を及ぼす恐れがあります。まずは、葉枯病のまん延を防ぐために早めの防除を心掛けましょう。

テーク水和剤、ポリベリン水和剤は、黄色斑紋病斑に効果があることが確認されています。耕種的・物理的防除として、多肥栽培を避け適切な肥培管理

表① ネギのシロイチモジヨトウに登録のある薬剤一覧

薬剤名	系統名	希釈倍率	使用時期	使用回数
ディアナSC	スピノシン系	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内
グレーシア乳剤	メタジアミド系	2000～3000倍	収穫7日前まで	2回以内
ブロフレアSC		2000～4000倍	収穫前日まで	3回以内
ベネビアOD	ジアミド系	2000倍	収穫前日まで	3回以内
ヨーバルフロアブル		2500～5000倍	収穫3日前まで	3回以内
アグロスリン乳剤	合成ピレスロイド系	1000倍	収穫7日前まで	5回以内
アフーム乳剤	マクロライド系	1000～2000倍	収穫7日前まで	3回以内
プレオフロアブル	その他	1000倍	収穫3日前まで	4回以内

を行うこと、土壌pHを下げないよう管理することが大切です。アミスター20フロアブルやメジャーフロアブルを散布する場合は、葉害(葉のよじれ等)防止のため、展着剤との混用は避けましょう(表②参照)。

表② ネギの黒斑病、葉枯病(黄色斑紋病斑)に登録のある薬剤一覧

薬剤名	適用病害		希釈倍率	使用時期	使用回数	特性		
	黒斑病	葉枯病 (黄色斑紋病斑)				予防	治療	浸透移行
アミスター20フロアブル	●	●	2000倍	収穫3日前まで	4回以内	○	○	○
メジャーフロアブル	●	●	2000倍	収穫前日まで	3回以内	○	○	○
テーク水和剤	●	●	600倍	収穫14日前まで	3回以内	○	○	○
ポリベリン水和剤	●	●	1500倍	収穫14日前まで	3回以内	○	×	×
ダコニール1000	●	●	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	○	×	×